

1年B組 国語科 学習指導案

日 時 令和3年11月18日(木) 6限
指導者 河野 祐子
場 所 国語教室1 (5F)

- 1 単元名 「石川の産業の未来」について提言しよう
「話し合いの展開を捉える
話題や展開を捉えて話し合おう～グループ・ディスカッションをする～」(光村図書)

2 指導にあたって

(1) 教材観

本単元ではグループ・ディスカッションを通して話題や展開を捉えて話し合う力を養う。そのためには、話題や流れを捉えて議論するためにはどのようなことに気をつければよいかということをまず自分たちで考え、その後、実際にテーマを決めてグループ・ディスカッションを行う流れとなっている。話し合いのスキルでは、協働的で建設的な話し合いをするために「根拠を述べる」「前の人々の意見を受けて話す」「自分の意見と比較しながら聞く」「意見を整理する」「話がそれた場合には元の話題に戻す」ことが大切である。そのことを教科書の例から考えたり、ICTを使って確認したり、実際に簡単なテーマについて話し合ってみたりすることで自ら導き出し、グループ・ディスカッションに生かすことができる内容となっている。よりよい話し合い活動のために必要なことについて、自ら課題意識をもち学ぶことができる教材と言える。

教科を問わず、これからさまざまな話し合い活動の基礎を身に付け、さらに、日々の話し合いの場面で「話し合いの意義」を感じられるような力を付けるために適した教材である。

(2) 生徒観

本校1年生(3クラス)で行った9月の国語授業アンケート結果である。

項目	肯定的評価 (%)
①国語の授業で話し合う活動を通じて、自分の考えを広げたり深めたりすることができていると思うか。	93.1%
②国語の授業で自分の考えを話したり書いたりするときに、うまく伝わるよう根拠を示しているか。	90.2%
③国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしているか。	75.0%
④国語の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役立つと思うか。	93.1%

これまでの学習では、多くの情報を収集する方法、情報の読み取り方、比較・分類およびその方法について学んできた。必要に応じて「マトリックス」「ベン図」「マッピング」など思考ツールを使って自分の収集した情報や、それに対する自分の考えをまとめ、レポート作りにも取り組んだ。その中で、自分に今本当に必要な情報を取捨選択することを意識できている。また、「意見と根拠」では意見に説得力をもたらせる根拠の吟味や、意見と根拠のつながりについて考えた。意見には客観的な事実や信頼性の高い情報、データに基づく根拠が必要であり、その間にある、意見と根拠をつなぐ考えを明らかにすることが大切であると学ぶことで、レポート作成やスピーチの活動に生かそうという姿勢が見られた。

話し合い活動には大変意欲的に取り組んでいる。どんな考えも共感的に受け止めてもらえる安心感をもって活発に話し合う姿が見られる。しかし、話し合う内容について目的を見失うことなく展開を捉えるというところにはまだ課題が見られる。本単元での学習を通して、今後の話し合いが効果的な活動になるよう、話し合い方のスキルアップを目指したい。また、アンケート③④の結果より、学んだことは役に立つと思ってはいるが、その実感がないことがわかる。日頃のさまざまな活動の中で活用できる場面を捉え、価値付けていきたい。

(3) 指導観

話し合いの話題や展開に応じて効果的に話し合いをすすめるためには、まず日頃の自分たちの話し合いを振り返り、どこに課題があるのか、よりよくするために何が必要かを理解し、改善することが必要である。そのためにこの単元では話し合いのモデルを用いたり、お互いの話し合いを評価し合ったりすることで、生徒自らが話し合いを改善させようとする課題意識をもって取り組めるようにする。

グループ・ディスカッションでは、話し合う必要感や必然性のあるテーマを設定するために、総合的な学習の時間とのカリキュラムマネジメントの視点をもち、石川県の産業が今後さらに発展していくための

課題について話し合うことにした。自分たちで収集した情報を取捨選択および観点に沿って整理し、それを根拠に自分たちの考えをもち、話し合いを進める。その話し合いが展開を捉えた協働的、建設的な話し合いになるよう、役割分担や話し合いの順序などを十分に確認していく。また、広がりや深まりのあるグループ・ディスカッションになるよう、個の思考時間を十分に確保した上で取り組ませたい。さらに、ここで学んでいる話し合い方のスキルは、これからの中学校生活のみならず、高校、大学、社会生活でも必要な力であることを認識させ、国語科だけでなく各教科で意識して話し合い活動に取り組み、大きなスパイラルの中で上達していくよう指導していきたい。

3 本時の学習（本時 第一次の2／2）

(1) 本時のねらい

自分たちの話し合いを振り返り、よりよいグループ・ディスカッションのプランを練ることができる。

【学びに向かう力、人間性等】

(2) 準備・資料等

自分たちの話し合い動画、PC、プロジェクター、ワークシート、Chromebook

(3) 本時の展開

時間 (分)	学習活動	予想される生徒の思考・反応	指導上の留意点	評価規準 【観点】 (評価方法)
5	前時を振り返る。 「よい話し合い」について確認する。 本時の課題を確認し、見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> 「よい話し合い」とはどんな話し合いか勉強した。 意見を言うときはその根拠を述べる。 出てきた意見や自分の意見を比較しながら聞いて考える。 意見を整理しながら進める。 話がそれたときは元の話題に戻す。 すぐに多数決に頼らない。 みんなの意見を尊重する。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時の最後にまとめたことを思い出させることで、本時の学習に必要なよりよい話し合いの観点を確認させる。 	
15	前時に撮った自分たちの話し合い動画を個人で見て、課題や良い点をさがす。 Chromebook	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いが盛り上がりすぎて、関係のないことを話していることがある。 時間内に話をまとめることができていない。 根拠がないのに、自分の考えを通そうとしている。 全員が自分の考えを出すことができているのはいいね。 	<ul style="list-style-type: none"> Chromebookを使って、まず個人で動画を見返させることで、自分たちの話し合いの課題点や良い点を見つけさせる。イヤホンを使用する。 発言の意図や効果についても着目させることで、課題だけではなく、これからも話し合いの中で大切にしていきたいことについても考えさせる。 	
20	出てきた問題点や課題を4人班で共有し、デザインシートを作成する。 比較・分類 観点 意見と根拠	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いが話題からそれないように、司会を立てたらいいんじゃないかな。 時間配分をしっかり考えて、途中で進み具合を確認したほうがいいね。 考えを述べるときは、根拠を述べないといけないね。述べていないときはお互いに問い合わせてみようか。 みんな必ず発言する機会を作ってはどうかな。 	<ul style="list-style-type: none"> 班で課題や良い点を共有することで、デザインシートでどのようなことを注意すべきかを意識させる。 共有した班の課題を解決し、よいところは継続していく話し合いになるようにデザインシートを工夫させる。 	「主体的に学習に取り組む態度」 (観察・デザインシート・振り返り) ここでは、自分たちの話し合いを振り返ることで、これから話し合いにむけての課題をさがしデザインシートを作成しようとしているかを確認する。
5	デザインシートの内容を発表する。		<ul style="list-style-type: none"> 本時の最初に確認した、「よい話し合い」について再度確認することで、自分たちのプランがさらによいものになるようにもう一度考えさせる。 メンチメーターに特に意識したいことを1つ記入させることで、発表内容を焦点化させる。 いくつかの班に発表させる。 その工夫がなぜ必要なのか問い合わせる。 	

【 深 】 デザインしている話し合いをさらによいものにするには、まだどんなことができるだろう。

5	<p>本時の課題に対するまとめを確認する。</p> <p>本時を振り返る</p> <p>次時の予定を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時間内に話し合いをまとめることが課題なので、時間配分に気をつけたい。 ・話し合いの内容が話題からそれてしまうことがあるので、司会を中心に気をつけていく。 ・意見の根拠が薄いので、個人思考のうちにしっかりととした根拠を準備しておく。 ・みんなの意見のよいところをまとめられていたので、本番もそんなふうにしたい。 <p>・話し合いをする上で自分たちの班が意識することがわかった。</p> <p>・これからのはし合いで生かしていく。</p> <p>・本番が楽しみだ。</p> <p>・今日の授業でわかったことや、これまでの話し合いで気をつけていきたいことを振り返らせる。</p>